



ザンビア通信

青年海外協力隊

2018.4.7 Vol. 1

文責 岡田 晃治

はじめに

Muli shaani bonse? (現地語でHow are you everyone?)

生物生産システム工学ユニット所属の岡田です。現在、青年海外協力隊という制度を利用し、2017年1月からアフリカのザンビア共和国にて生活しております。私は今、日本ではできないとても貴重な経験をたくさんさせていただいており、それをぜひ多くの人々に共有したいと思い、この文書を作成しました。インターネットでは見つけれないようなローカルならではの情報も発信していきたいと思っておりますので、お時間が許す際に目を通していただけると幸いです。

青年海外協力隊とは？

はじめに、私が利用しているプログラム、青年海外協力隊について説明します。



青年海外協力隊は日本政府のODA予算により、独立行政法人国際協力機構(JICA)が実施しているボランティア事業の1つです。開発途上国からの要請に基づき、それに見合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい人」を募集し、選考・訓練を経て派遣されています。その主な目的は、以下の3つです。

- (1) 開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与
- (2) 異文化社会における相互理解の深化と共生
- (3) ボランティア経験の社会還元

ザンビアってこんな所！

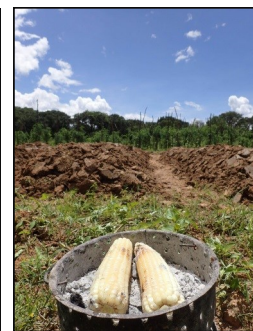
つぎに、私の派遣国であるザンビア共和国について説明します。ザンビアはアフリカ南部に位置し、周囲を8つの国に囲まれた内陸国です。面積は約75万m²、人口は約1,600万人で、日本と比較すると2倍の面積に1/10の人が住んでいることとなります。南緯15°付近に位置していますが標高1,000m以上と高いため、穏やかな気候で過ごしやすいです。



国民は73の民族から構成されており、それぞれが異なる文化や言語を持っています。そのため、公用語は英語ですが、多くの国



現地の農家さんとの活動の様子



トウモロコシと広い空

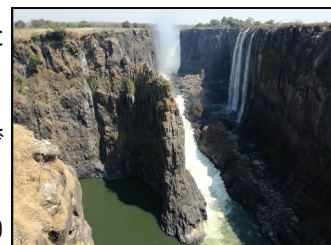
青年海外協力隊は発足から50年以上の歴史を持ち、これまでにのべ4万人を超える方々が参加しています。現在も2,000人以上の隊員が70ヶ国に派遣中です。

青年海外協力隊への応募は20～39歳で、40歳～69歳の方はシニアボランティアという制度に応募が可能です。活動分野は農林水産、保健衛生、教育文化、スポーツ、計画・行政など多岐にわたります。自分の持っている知識や技術、経験などを生かせるのが特徴です。派遣期間は原則2年間ですが、1ヶ月などの短期ボランティア制度もあります。

もっと詳しく知りたい方はぜひHP(<https://www.jica.go.jp/volunteer/>)にアクセスしてみてください。

民はベンバ語やニャンジャ語と呼ばれる現地語を話します。

主要産業は鉱業と農業です。世界的な銅の産地であり、日本でも輸入され、一部が10円硬貨にも使用されていま



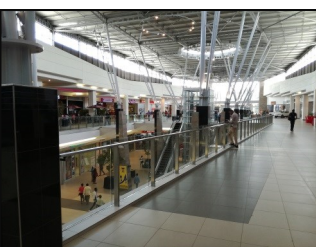
ヴィクトリアの滝

す。また豊富な水資源を利用した農業も盛んで、主食のメイズ(トウモロコシ)や野菜、サウキビなどが生産されています。また、観光資源としてジンバブエとの国境にヴィクトリアの滝(Victoria Falls)があります。世界遺産に登録されており、世界中から多くの観光客が押し寄せています。



現地の人々の生活

「途上国」と言われて、どのようなイメージを思い浮かべますか？ 貧困, 飢餓, 食料難, 不便, 不衛生, ...たしかにこのような場所も他の国にはあるかもしれません。しかし, ザンビアではこのような光景を目にすることはほとんどありません。それどころか首都などの都市部では急速な発展が進んでおり, 大きなショッピングモールが立ち並ぶほどです。多くの



ショッピングモール内の様子

人々は携帯電話を持ち, 日本から輸入された中古車に乗り, 食べ物に困ることもなく, 水洗トイレが普及した暮らしの中で生活しています。面倒見の良い国民の気質もあって, ストリートチルドレンを目にすることもまれです。このように, 日本人がイメージするアフリカとは真逆の生活がここにはあります。

一方で, 都市部と農村部の格差拡大が問題となっています。農村部には都市部に比べて店が非常に少なく, 仕事も

ザンビアの農業

右の写真はザンビアにおける典型的な食事例になります。主食のシマ(トウモロコシの粉をお湯で練ったもの)を, 主菜の鶏肉, 副菜の葉物の油炒めと共にトマトソースに浸していただきます。たまに主菜が牛肉や魚になったり, 副菜が他の野菜になったりすることもあります。そして, これはザンビアの農業も表していると言えます。例えば, 主食になるトウモロコシは自給率150%以上で, どこの圃場に行っても栽培されています。畜産も盛んで, 牛や鶏だけでなく, 豚や山羊の飼育も行われています。野菜はトマトとキャベツやハクサイなどの葉菜類を中心に栽培されています。その他, ザンビアは内陸国ですが, 湖や池の水を利用した養殖も積極的に行われており, アフリカ南部最大級の農業国と言っても過言ではありません。



典型的な食事例

最後に

ザンビアでの生活は, 日本では想像できない日々の連続です。この体験を発信することで, アフリカや海外に興味を持っていただけると幸いです。質問がある方, アフリカやボランティア活動に興味がある方はお気軽にご連絡ください。

ほとんどありません。そのため, 多くの人々は農業による自給自足の生活を営んでいます。自給的農業なので収入はほとんどなく, 貧困に定義される1日1.90ドル以下で生活している者もいます。都市部での急速な発展が進む中で, このような農村部の人々が取り残されつつあることも知っておかなければなりません。



農村の風景

ただし勘違いしないでいただきたいのは, 農村部の人々はお金がなくとも生活には困っていないということです。それどころか今の生活に非常に満足しており, 幸せを感じている人はたくさんいます。私はザンビアに来て, 数字などのデータだけでなく, 現場を見ること・知ることの大切さを日々痛感しています。「百聞は一見に如かず」とはまさにこのことだと思えます。

しかし, まだまだ改善できる点はたくさんあります。例えば, 機械化です。一般的には鋤を用いる農作業が多く, トラクタや家畜はほとんど使用されません。私も一緒に作業を行いますが, 全て手作業なので非常に疲れます。機械を用いれば..と思うこともしばしばあります。しかし, ここで弊害となるのが農家のほとんどが自給的であることです。農村部の農家には機械化のデメリットが



鋤を使った畑の耕うん作業



都市部にあるセンターピボット

多く, いまひとつ進んでいないのが現状です。都市部にはわずかながら商業的農家もいます。センターピボットを利用した栽培も行われており, ザンビアでは多様な生産方法が見られると言えます。

岡山大学大学院環境生命科学研究科生命環境学専攻
生物生産システム工学ユニット

岡田 晃治 (E-mail: py3497vt@s.okayama-u.ac.jp)